

平成30年度第1回総合教育会議 概要

日時 平成31年2月14日(木)

10:00～12:05

場所 本庁舎会議室401

1 参加者

夏野市長

長井教育長、眞岸委員、宮原委員、織田委員、野上委員

(事務局)

企画管理部 島木部長、小塚次長

政策推進課 久々江課長、盛光課長補佐、旅家主事

教育委員会事務局 松長事務局長、丹羽次長

学校教育課 菅原課長、竹内課長補佐、黒川係長

生涯学習・スポーツ課 園木課長、安元課長補佐

教育センター 清水所長

2 議題

(1) 射水市総合教育会議運営要綱の一部改正について
意見なし

(2) 生涯スポーツの推進について

スポーツ参加の機会づくりについて

教育委員 孫とキッズポートを利用する中で感じたことを3つ提案したい。

・託児所付きのスポーツ施設の設置

子育て時の女性のスポーツ参加がその子どもにも影響する。「託児所があればスポーツ施設に行きたい」という声があった。

・スポーツクラブであったか家族親子割引の実施

新湊カモンスポーツクラブで実施済。あったか家族応援プロジェクトは様々な団体が参画しているが、子育て世代の認知度が低く、よりPRすることを提案する。スポーツが親子の触れ合いの機会になり、家族の喜びにつながる。

・市民みんなで踊れるダンスの取組

2020 応援ソング「パプリカ」のように、親子のみならず色々な世代が自

分を解放できるようなリズム体操があれば、市の一体感や活力の向上になる。既にムズムズ体操や 100 歳体操があるが、市民で一つの体操があればいい。

市長 100 歳体操は、小さいコミュニティ単位で気軽に参加でき、ある程度の頻度を持って行うことで、体力向上だけでなく日常会話の場にもなるよう工夫をしている。託児所付きスポーツ施設は、保育士確保が課題になる。現在、全国で保育士を取合う状況になっており、潜在保育士の掘り起こしに努めている。

教育委員 既存施設の利用方法について提案したい。下村パークゴルフ場は、4 コースのうち週代わりで 1 コースを、芝を休めるために一般開放せずファミリーコースとして家族でゆっくり利用できるよう運用している。せっかく市内に複数のパークゴルフ場があるので、それぞれの現状を把握し親子や 3 世代で楽しく利用できるようにしてはどうか。コミュニケーション力や体力増進といった効果も見込める。

市長 1 コースをファミリー向けにしているのは非常にいい取組。下村の事例を他の施設に伝えたい。

教育委員 C A T V でダンスの映像を流すことはできないか。子どもは親を巻き込むので、子ども向けにダンスの映像を流してもらえば、録画して外に行かなくても家の中で親子一緒に踊って遊べる。スポーツをしたいけどどうすればいいかわからない母親に提案できる企画をしてもいいのではないか。

市長 気軽に運動に参加できるような取組を進めたい。その点、パークゴルフはとっつきやすく、地域のレクリエーションとして人気がある。定着してきただけに、改めて気軽にできることを P R することも必要だと思う。

教育委員 若い頃運動していた 4 0 ~ 5 0 代の方は自分の体力を過信しているきらいがあるので、体力測定をして自覚してもらおうのも一つのスポーツを始めるきっかけになる。

市長 気持ちは若いままだが、体が思うように動かないことはある。体力測定の機会を作るのはいいかもしれない。

教育委員 骨年齢や血液年齢のチェックを住民検診と一緒にできればいいと思う。

教育長 要はきっかけである。先日、事業所や中学校のサッカー部、スポーツ推進員と協力し、障がい児を対象としたスペシャルサッカー教室を開催し

た。観光メニューの一つとしてスポーツが取り上げられることもあり、様々な方向から考える必要がある。実施主体の負担を軽減するためにも、多様な団体と連携し、幅広い視点で考えられるようネットワーク化しなければならない。

市長 する みる 支えるスポーツ環境の充実に向け、様々なきっかけからスポーツに触れ合える取組が必要である。

中学校運動部活動について

教育委員 部活動指導員には大きな期待が寄せられているが、勤務体制等の問題があり人材確保が大変であると感じている。また、部活では、トップアスリートを目指す方と生涯スポーツを想定した持続性のある活動をする方の2つの選択肢を設けてはどうか。

市長 元々、部活動の指導は、意欲のある先生もいれば、未経験の運動部を担当する先生もいて難しい。現在の仕組みは、競技団体から部活動指導員になる人材を見つけ、部活動指導員を必要とする学校に配置するというもの。そのような人材を確保できないスポーツもある。

教育委員 射水市に「部活動指導員をやってもいい」という人を集めるシステムを企業とタイアップして作ってはどうか。部活動は子どもの人間形成にも大きく関わるので、指導者が研修を受ける機会を設け、信頼できる体制にする必要がある。

市長 部活動指導員と生徒の関係作りが必要であると考えている。

教育委員 親は、信頼できる人に部活動の指導をしてもらえたら安心する。子どもにとって、憧れの対象になるのは身近な人が多い。夏休みの間、大学生に勉強を教えてもらう企画があるが、同様にスポーツを習ったり一緒に楽しんだりすることも有効ではないか。

教育委員 有名な大学の合宿を誘致するのもいいかもしれない。

教育長 弓道場や相撲場を利用した合宿誘致を予定している。富山国際大学や富山福祉短期大学と連携した企画も少しずつ進めている。運動部の高校生が補助員として小中学校に手伝いに行っている例は多い。大学や高校との連携も必要と思っている。

教育委員 中学校の部活動は、指導が重要であり、年齢に応じたトレーニング方法を教員も学ぶことが必要ではないか。

市長 指導にあたって、人材の確保、質の向上を図る研修の必要性、そして高校、大学との連携を検討する必要がある。今後は、週休日のいずれか1日でスポーツクラブとの連携を図るなど、生徒への工夫も必要である。生徒のやる気と可能性を伸ばす取組を進めたい。

(3) 学校におけるICTの活用について

教育委員 何処で、どの様にICTを活用するのが大切であり、教育的成果、効果ができるようにしていかなければならない。子どもの特性を見極めるとともに、若者や高齢者等と一緒に活用方法が学べる研修の充実をお願いしたい。

教育委員 ICT環境が順調に充実している印象を受けている。導入により、授業が従来と大きく変わる。タブレット端末は、主体学習や対話を学ぶ場面で効果的なツールである。今後とも、国の基準と同様に整備を進めてほしい。

教育委員 メリットも多いが、ネット依存症の子どもの増加が問題になっている。その分野の教育について、学校だけでなく、保護者向けの勉強会も必要である。また、普通学級だけでなく特別支援教育における活用方法も研究を進めてほしい。

市長 リスクについては、学校と家庭の連携と、危険性を繰り返し伝えることが重要である。外国籍の生徒が増えており、ICT機器により多言語での学習が可能になるので、そのような活用も考えたい。

教育委員 ICT機器の利用により五感を使うことが減りそうなので、子どもの情緒面の発育が心配である。教員は子どもたちとのコミュニケーションを十分に取ってほしい。また、時間のロスを防ぐため機器トラブルに対応するスタッフがいたらよい。

市長 先進地では機器トラブル対応の専門スタッフを置いている。

教育長 ICTの導入により膨大なデータを扱えるようになるが、その膨大なデータを正しいものが見極める力をつけることが重要である。情報の真実やセキュリティー、ネット利用のルール作り、セルフコントロールなど、ICT教育を柱にした新しい教育活動が求められる。また、いのちやコミュニケーション能力の教育も必要である。

教育委員 小学校においては、低学年、中学年、高学年それぞれで使い方が異なる。教員がそれぞれの段階で効果的に活用するための研究が必要。

市長 ICTについては、今後もスキルのほかモラルも考えていく必要があるだろう。環境ばかり良くなっても駄目で、使い方に問題意識を持つことが重要である。

- 3 片山学園との包括協定の締結について
意見なし